第５回登別市総合計画第３期基本計画市民検討委員会 産業躍動部会 議事録

（敬称略）

◆ 開催日時　　平成２６年９月１７日（水）
　　１８：３０　～　２０：００

◆ 開催場所　　登別市役所３階　第２会議室

◆ 出席部会員　　部会長　　髙橋　弘康
　　副部会長　　小川　賢
　　部会員　　安達　陽子
　　近井　一夫
　　志水　孝暢　　（市庁内検討委員会　部会長）
　　【観光経済部　次長】
　　井上　昭人　　（市庁内検討委員会　副部会長）
　　【観光経済部商工労政グループ総括主幹】

◆ 欠席部会員　　部会員　　木村　義恭
　　白田　明義
　　川田　弘教

◆ 事務局　　沼田　久人　　【総務部企画調整グループ総括主幹】
　　田中　健太郎　　【総務部企画調整グループ担当員】

◆ 議題　　体系図に関する協議（３回目）

≪部会長≫

時間になりましたので、体系図に関する協議を進めていきたいと思います。

これまで、体系図の第３章「第１節－活力に満ちた魅力あふれる産業をつくる」「施策Ｉ－活力ある複合的産業基盤の形成と雇用の安定」「施策の基本的な方向性１－活力ある市内企業の育成」の中の「主要な施策①経営基盤の強化と経営支援機能の充実」について話し合いを行いましたので、本日は「主要な施策②ブランド力・技術力の強化」から話し合いを行っていくということでしたが、副部会長より提案があるということですので、お願いします。

≪副部会長≫

体系図について、庁内検討部会では市民検討委員会よりも会議が進んでおり、おおよそ検討が終わっていると聞きました。

皆さん、なかなか集まれない状況もあり、日数的にも非常に厳しくなってきているため、庁内検討委員会で検討した体系図を提示していただいて、その体系図をもとにこの部会で検討していきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

≪事務局≫

それぞれの部会で検討が進められているところですが、まだ市として完成したわけではありませんので、現時点ではお示しすることはできません。

まずは、市民と行政が同じ資料をもとにして、それぞれの検討の場で考えていただくというのが、今回の趣旨です。
また、体系図の根底となる皆さんの思いや中小企業の支援に必要なことなどについては、前回までにおおよそお話しをいただいているかと思いますので、ここから進むペースは上がると考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

≪副部会長≫
わかりました。

≪部会長≫
それでは、まずは、体系図の第３章「第１節－活力に満ちた魅力あふれる産業をつくる」「施策Ｉ－活力ある複合的産業基盤の形成と雇用の安定」「施策の基本的な方向性１－活力ある市内企業の育成」の中の「主要な施策①経営基盤の強化と経営支援機能の充実」について、前回まで話し合いを行いましたが、付け加えたいお話しなどがあれば、お願いいたします。

≪部会員≫
ありません。

≪部会長≫
では、「主要な施策②ブランド力・技術力の強化」に進んでいきたいと思います。
まずは、行政の方から、これまでの取組みについて説明をお願いします。

≪市庁内部会副部会長≫
登別のブランド力を強化するために、「登別ブランド推進協議会」を設立して、ブランド推進事業を行っております。登別の特産品をつくっていくために、加工食品の認定制度を運用しています。
今は、加工食品を限定とした取組みを推進しておりますが、もともとの構想では、加工食品に限るものではありません。
その次に、登別市に「食のイメージがない」という観光客等の声を受け、ご当地グルメの開発に向け、料理研究の３団体が市内で生産されるものの活用を検討する等、メニュー開発を行っています。
今後の方向性としては、ご当地グルメのメニューを今年度のうちに決めてＰＲにつなげていきたいと考えています。
もともと、登別のご当地グルメというのは、市民の方でもイメージができない状況があり、「地域でとれるものを使ったメニューの新規開発」というコンセプトで取組んでいます。
最近では、ブランド認定されている商品を製造している事業者が集まって構成される「登別ブランドの会」が「閻魔担々焼きそば」をオータムフェストに出店し、５日間で

約１,３００食を販売しました。
　ご当地グルメのメニューが「焼きそば」に決まったわけではありませんが、まさに今、取組んでいるところです。
　また、「農畜産物や水産物、工業製品など、地元産品の高付加価値による登別ブランドの確立に向けた取組を支援します。」とありますが、ここの「登別ブランド」は「登別ブランド推進協議会」の取組みに限ったことではなく、登別の有名な産品に光を当てていきたいという考えです。
　例えば、農畜産物ですと、「登別牛」や「シカ肉」、今後は「豚肉」などが考えられますし、水産物もたくさんあります。さらに、工業製品では、化粧品、湯の華、温泉を使った石鹸、革製品など市内で作られているものに今後、光を当てていけないかということを考えて進めています。
　昔からの課題として、登別産のモノを登別温泉で活用できないかということがありますので、市内の事業者が連携して取組むことが必要だと考えています。
　また、新製品の開発を促していきたいという考え方もありますし、食品加工業者を道外から誘致し、北海道の材料を使って新たな商品開発を進める取組みが増えてきておりますので、今後も取組みとしては重要になってきます。

≪事務局≫
　第２期基本計画では、地域ブランドの確立支援に向けて進め、食の関係は確立したので、今後は、工業製品など、幅を広げてさらに力を入れていくという考えですね。

≪市庁内部会副部会長≫
　そうです。
　手法も認定制度にこだわっているわけではありません。
　登別ブランド推進協議会の中でどのように取組んでいくのか検討が必要と考えております。

≪事務局≫
　これまで開催したこの会議の中でも、地元のブランド力の話は出ており、農業や漁業の流通の実態や、ホテルでの活用の難しさについて共有しましたが、引き続き実施に向けた取組みは必要なことだと考えています。
　これは、今、庁内部会で考えていることと同じですか。

≪市庁内部会副部会長≫
　タイトルについては、「ブランド力・技術力の強化と新製品開発の促進」ということで、「新製品開発の促進」が追加されて枠組みが若干変わっておりますが、基本的には変わりません。
　具体的な取り組みは、今年度中にご当地グルメのメニューを決めて、来年度からＰＲしていきたいという考えで、なんとか登別市に「食」のイメージをつくりたいと思って

います。
　加工食品及びご当地グルメの取組み以外のブランド化の動きは、登別ブランド推進協議会の中でも行っておりませんので、今後進めていく予定があります。
　一つ一つ取組みを進めている状態です。

≪部会長≫
　ご当地グルメの話ですが、使える食材にも、魚、鹿、牛、豚などがあり、幅が広すぎると思う。
　ご当地グルメをつくるにしても、１つの具材に絞るのか、幅広いものに支援していくのか疑問でした。

≪市庁内部会副部会長≫
　ご当地グルメについては、これまで２年ほど検討していますが、市からコンセプトの指定はせず、自由に検討を行っていただいておりました。
　しかし、年数を重ねたところ、そろそろ一定の方向性を示さなければいけないという考えに至り、価格、材料などのコンセプトについて、登別ブランド推進協議会の中で協議を行いました。
　この結果は、市内でご当地グルメの研究を行っている３団体に情報提供を行い、メニューの開発に取組んでいただいております。
　コンセプトは、本日お持ちしておりませんが、市としては、登別温泉だけでなく、市内の飲食店に足を運んでいただきたいと考えておりますので、多くの店で提供できなければなりません。
　また、イベントでも提供したいと考えていますが、価格によっては難しいですし、通年、手に入る食材でないと、安定して供給ができないということで、条件を絞られていくと難しい。
　例えば、登別牛を使うと価格は高くなってしまいます。

≪事務局≫
　ご当地グルメの方向性としては、特定の材料で一定の調理法で調理を行って提供できるグルメを目指しているのでしょうか？

≪市庁内部会副部会長≫
　材料や価格などのルールをある程度決めて、各飲食店が独自の特色を出せるようにすることが良いと感じています。
　どこのお店でも同じものしか提供されないのであれば、１回行ったら終わってしまうと思うので、個々のお店で使っているものが違う等の違いが出せれば、飲食店をめぐるような取組みにもつながると思っています。
　現在、メニューの研究をしていただいておりますが、なかなか決まらない状況ですので、検討している３団体が１つになって検討したいという話も出ています。

メニューが固まったら、各飲食店に打診し、それが固まったら、市がＰＲし、お客様により多くの飲食店に足を運んでもらえる仕組み作りを進めていきたいと思っています。

≪部会員≫
材料の話になりますが、牛や鹿は加工してから材料にしなければならないですよね？

≪市庁内部会副部会長≫
飲食店で仕入れるときには、ある程度すぐに料理ができる状態になっていないといけないと考えています。

≪部会員≫
野菜や魚は、ある程度そのまま使えるが、多くの材料は１回どこかで加工しなければならないと思います。加工するとなると、地場産がわからなくなることもあるため、入手しやすい材料を使ったメニューにすることも考えたほうが良いと思います。
全部登別産というのは、望ましいことですが、難しいと思いますので、主になる材料を登別産にすれば良いと思います。

≪市庁内部会部会長≫
登別にある材料で料理をするとなると、何があるのかというところから考えなければなりません。
まず、鹿肉の処理場が新しくできて、肉屋で販売もできています。
また、登別の場合、畑作がないですから、野菜はほとんど採れませんので、あるとしたら農水産物で考えると「登別牛乳」や海の幸が考えられます。
その中から、１年間仕入れが可能で、価格が安く、どこの店でも簡単に調理ができて、さらに、消費者が食べてみたくなるようなものを考えていかなければなりません。
料理人は、手をかければ、お客様においしいものを提供することはできますが、Ｂ級グルメを見ると、焼きそばやカレーライスなど簡単なものが多いです。

≪部会長≫
住んでいるまちの人が一番消費しないといけないと思います。

≪市庁内部会部会長≫
ご当地メニューというのは、「昔からあるもの」と「新しく開発するもの」の２通りあります。
いろいろ考えましたが、「昔からあるもの」というのは、登別市にはなかなかないので、そうすると、新しく開発しようという流れになりました。

≪事務局≫

「登別」と名称がつく料理を何か作っていきたいということですよね。

≪市庁内部会副部会長≫
今はありませんので、新しく作ってもらうというところから始めています。

≪部会員≫
鹿肉はいつでも手に入るものなのでしょうか？

≪市庁内部会副部会長≫
鹿肉はいつでも手に入るようになっています。

≪部会員≫
すけそうだらはどうなのでしょうか？

≪副部会長≫
鮮魚としてとれるのは冬ですが、身よりも魚卵の方に価値が高い魚ですので、身の活用を考えるのは難しいと思います。
あくまで、すり身の材料という活用が強く、加工向けというイメージの魚です。

≪部会員≫
スイーツはどうでしょうか？

≪市庁内部会部会長≫
欲を言うと、男性より女性やお子さんの方が「食」に対するこだわりが強いと思うので、スイーツも良い考えだと思っていますが、スイーツの原料を考えていかなければなりません。

≪部会員≫
パンケーキのお店ができましたが、誰かがおいしいというと、行きたくなります。

≪市庁内部会部会長≫
人が並んでいると行きたくなりますよね。

≪部会員≫
少しのことで大きくなると思いますので、そんなにこだわって作らなくてもいいのかなと思います。

≪事務局≫
普段食べられるものじゃないと広がらないですよね。

≪部会長≫
　いたるところにのぼりがないとご当地グルメとは言えませんよね。
　ところで、現在、ご当地グルメを研究している３団体というのは、鷲別から温泉まで全部入っているのでしょうか？

≪市庁内部会副部会長≫
　研究している会は、１つは、登別ブランドの会で、これは、市内のブランド認定事業者の集まりです。そのほかの２つは、登別地区と幌別地区の人が中心になっております。しかし、その方々が研究開発したメニューだからと言って、その方々だけしかメニューを提供しないということではなく、市内の様々な店で提供していきたいと考えています。

≪部会員≫
　先ほど、ブランドで革製品や湯の華という案が出ておりましたが、ブランド化されれば、市が助成などをしていく考えはあるのでしょうか？

≪市庁内部会副部会長≫
　助成というよりは、一定のルールのもと市が PR などの支援をすることになっていくと思います。

≪部会員≫
　登別といえば温泉ですから、湯の華は PR しやすいと思います。

≪市庁内部会副部会長≫
　主要な施策の考え方で「工業製品」という表現を使っていますが、お客様や観光客に買ってもらえるような工業製品を想定しております。
　例えば、苛性ソーダなどの工業製品は、専門的な知識が必要となり、審査ができませんので、認定ができません。

≪事務局≫
　行政は公平の観点から１つの企業をＰＲすることができません。

≪部会員≫
　ブランドの会など通してやる分には問題ないのでしょう。

≪事務局≫
　「登別牛乳」はＰＲできますが、「〇〇さんのつくる牛乳」は良いものですとＰＲすることはできません。
　公平公正のルールのもと支援をしていきたいという考えです。

≪部会員≫
　工業製品などで、市内に製造している会社が１件しかない場合は、ＰＲや支援をしても良いのではないか？

≪市庁内部会部会長≫
　今は、加工品に限定し、あくまで「自薦」というかたちで、事業者が出してきた商品を審査してきました。
これまで、５年間続けてきており、加工品だけで良いのかということも検討している段階ですが、今後、今までのような「自薦」がいいのか、「市民が選ぶ登別ブランド」としていくほうがよいのか考えていくことも必要だと考えています。
　「認定する」ということの根底には、登別の温泉以外の魅力を発信したいという思いがあります。

≪部会長≫
　函館の夜景のような食べ物だけではないということでしょうか？

≪市庁内部会部会長≫
　景観もありだと考えています。

≪事務局≫
　方向性としては、１０年間の中でやっていくということですね。

≪部会長≫
　皆さん他に意見はありますか。

≪部会員≫
　ありません。

≪部会長≫
　では、続いて「主要な施策③市内企業の連携強化と地場利用運動の推進、事業機会の強化・拡大」について考えていきたいと思います。
　説明をお願いします。

≪市庁内部会副部会長≫
　タイトルが「市内企業の連携強化と地場利用運動の推進、事業機会の強化・拡大」としておりましたが、庁内での検討の現段階では「市内企業の連携強化と域内循環の推進」に変更になっています。
　「地場利用運動の推進」という表現は、「地場利用運動」という具体的な活動がある

ように見えるので、修正した方が良いと考えました。
　それで、地域内で循環させるという意味で「域内循環の推進」としました。
　主要な施策の考え方の１つ目の項目は「・市内における購買力を高めるとともに、市内企業間の経済循環を向上させるため、商工業者や関係機関との連携を図りながら、地場での購買・消費を促す地場利用運動を推進します。」となっておりますが、「・域内循環を向上させるため、商工業者や関係機関との連携を図りながら、市内企業間取引や市民の市内消費を促す取組みを推進します。」に変更しています。文章は変わっておりますが、市民の方に市内で消費していただきたいという考え方と市内の企業同士が取引きしてほしい、または、取引きを拡大してもらいたいという考え方は変わっておりません。
　また、市内企業の連携強化ということで、３つ目の項目が「・異業種間・同業種間、産学官の連携による取組を支援します。」となっておりますが、わかりやすい表現にするため「・農水産業、商工業、観光業などの産業間の連携を強化します。」に変更しています。「産学官の連携」という言葉が外れておりますが、行政は企業からの要望があれば、ノウハウのある大学や研究機関を紹介することは行っております。まずは、産業間の連携を強化していきましょうということです。
　また、２つ目の項目「・産業フェアーや商談会等への参加を支援し、ビジネスチャンス（事業機会）の拡大を図ります。」については、庁内検討委員会では、新しい主要な施策「④事業機会の拡大と新分野進出の支援」をつくり、その中の主要な施策の考え方で「・市内企業が持つ優れた製品や技術などの情報発信に努めるとともに、産業フェアや商談会等への参加を支援し、国内外における事業機会の拡大を図ります。」としております。
　市内企業のビジネスチャンスの拡大を図っていってもらいたいということと、今後は、国内だけでなく、海外に向けた取組みも出てくるのではないかということで考えています。

≪事務局≫
　２期計画でバラバラに記載されていたものを１つにまとめたりしていますし、言葉を具体的でわかりやすい言葉にするなどの変更を加えていますが、基本的な考え方は変更していません。

≪副部会長≫
　企業間の連携強化ということについて、市はどのような取組みをしていく予定でしょうか。

≪市庁内部会副部会長≫
　行政と企業の情報交換の場で、「企業同士でのつながりがない」という話を聞きます。
　興味は持っているが、付き合いがないので、取引きに結び付けられないという相談もあり、今は、企業同士が結びつくように企業同士が情報交換する場や行政が企業を紹介するような取組みを行っております。

具体的に市内で製造されている商品を使いたいとなった際には、その企業との橋渡しをする取組みを行っています。
しかし、正直なところ、市ができることは少ないと感じています。

≪副部会長≫
民間の商売に関することなので、行政が関与しにくい部分だと感じましたので、質問しました。このことは、表に出していく方が良いのでしょうか？

≪市庁内部会副部会長≫
企業側から依頼があれば、取組みやすいので、企業訪問を日頃から行い、情報交換を行っておりますので、可能な範囲で企業同士をつないでいきたいと考えています。

≪部会員≫
異業種間交流はあったほうが良いですよね。

≪市庁内部会副部会長≫
具体的には、市内に「水滴の会」という会があり、毎月１回集まって、視察を行ったり、講演会を開催したりといった活動をしております。
他に、室蘭市では、テクノセンターが中心となって、情報交換会の場や懇親会を開催しています。

≪事務局≫
以前、登別市でも体育館などで産業フェアをやっていたことがあったと思う。

≪部会長≫
やっていた記憶はありますが、産業フェア自体がなくなってしまったのだと思います。

≪事務局≫
ここに記載されている産業フェアは、よその地域で開催されている産業フェアを指しているのでしょうか。

≪市庁内部会副部会長≫
そうです。
地域外に販路拡大を目指している事業者が参加するようなフェアで、参加して、他の地域からお金を稼いできていただきたいと考えています。外貨獲得のための取組みの１つです。

≪部会員≫
地元企業が外に出ていく方の取組みも必要でしょうけど、誘致の方はどうでしょうか。

≪市庁内部会副部会長≫
　雇用を多く生むことができるのは、製造業だと思いますが、今の状況は、人件費などの安い海外へ工場が進出する傾向がありますので、なかなか誘致は厳しいです。

≪事務局≫
　先ほど、副部会長の言った内容ですが、やりにくくても載せることになるのでしょうか。

≪市庁内部会副部会長≫
　市内で扱っている商品があるのに、別の事業者から商品を購入するというのは、市内でお金が回らないので、少しでも市内でお金を消費してもらう仕組みが必要だと思っています。
　そのために、まずは企業間の連携が必要だと思っています。

≪市庁内部会部会長≫
　双方にとって良い関係を築くことが、商売を成り立たせていくうえで大事なことだと考えています。

≪市庁内部会副部会長≫
　当然、価格が折り合わなかったら、市内の企業から買いたくても買えないということもあると思います。

≪部会長≫
　小さいことからいうと、釘１本でも市内企業で買ったり、使用する燃料もガソリンスタンドではなく、燃料屋で購入するということをしています。
　１人１人がそのような取組みができれば良いのでしょうけど、安い方を買ってしまう気持ちもわかります。

≪市庁内部会部会長≫
　地域を活性化させていくということは、地域で買える物は地域で買うことや、部品を市内で購入して、市内の事業者で製品に組み立てていただくなど、つながっていくことが必要です。
　難しさもありますが、行政としては、推進しなければならない内容です。

≪事務局≫
　以前、この会議で話していたことに戻りますね。
　どうしても安いものを購入したいという気持ちはあると思います。

≪部会長≫
　どうでしょう。他に意見はありますか。

≪部会員≫
　良いと思います。

≪部会長≫
　それでは、次に「主要な施策④地域コミュニティ機能の強化とにぎわいの創出」に進みたいと思います。
　内容の説明をお願いします。

≪市庁内部会副部会長≫
　現在、お配りしている資料では、主要な施策は「地域コミュニティ機能の強化とにぎわいの創出」となっておりますが、庁内で検討している案では、わかりやすくするために「にぎわいあふれる商業の振興」に表現を変更しています。
　１つ目の項目で「・商店街が地域のコミュニティの中心となるための取組を支援します。」とありますが、これは、現在の庁内検討委員会でも変更はありません。
　商店街は、昔は地域のコミュニティの中心にあって、みんながそこで買い物に行くことによって、人のつながりができましたが、今は薄くなってきているという実情があります。
　価格とか品揃えだけ考えると、商店街以外のところへ行ってしまうことが多いかと思いますので、今後、商店街として生き残っていくためには、地域コミュニティの中心という機能が必要だと考えています。
　また、主要な施策の考え方の２つ目の項目で「・地域に根差した商店街づくりを進めるため、商店街が取り組む住民ニーズに対応した事業を支援します。」としていましたが、内容が変わって、先ほどの１つ目の項目とあわせて全部で４つの項目としています。
　追加した内容は、「・市外からも買い物客が訪れる魅力溢れる商店街づくりを進めるため、商店会等が取組むにぎわいの創出や魅力を高める環境整備の取り組みを支援します。」、「・身近な地域で買い物ができるよう、商店街等への新規出店を促進するとともに、多様な買い物ニーズに対応したサービスの提供を支援します。」、「・経営者の確保・育成を図る取り組みを支援します。」の３項目です。
　市民が地元で買いましょうということを考えていましたが、人口減少も進み、購買力も減少することから、室蘭市や白老町などの近隣市町からも商店街に買い物に来ていただきたいと考えています。
　「地域に根差した商店街」という表現は、地域のコミュニティとも関連するのですが、地域の人が地域で買い物する商店街のことです。また、高齢者の中で交通手段を持たない「買い物難民」と呼ばれる方が増加傾向にあり、買い物に困っている方が増えている状況があります。
　そのため、一定の区域で買い物できる環境だと考えていますが、商店街自体、だんだ

ん経営が難しくなってきているということもあるので、商店街として独自に人を呼ぶための取組みを行うことが難しくなってきています。
　そのため、市では「商店街活性化事業補助金」という事業を創設して、空き店舗を利用していただける事業者に対して家賃の一部を補助する制度や商店街に独自に人を呼べるような仕組みを企画してほしいというような思いで、商店街や商店会が新たにイベントをする場合の経費の一部を市が支援する制度を設けています。
　商店街としての魅力を高めていきながら、市民が地元の商店で購入したいと思えるような取組みをしていくことが必要だと思っています。
　また、商店街の空き店舗が増える理由として、経営が厳しいということもありますが、後継者がいないという問題もありますし、昔の商店街は販売スペースと住居が一体になっているところも多く、店舗は営業していないが、人は住んでいるというケースが多くあります。
　そのような建物では、他の人に店舗を貸せない状況になっているところが多い状況です。
　そのため、店舗が営業されているうちに、外から経営者を呼び込み、後継者を育てる必要性が高まり、全国的にも行われていることから、今後、登別市でも必要になってくるのではないかと考えています。

≪事務局≫
　この主要な施策の根っこにあるのは、買い物難民が出てきたり、これから人口減少や高齢化が進むので、国の方から立地適正化計画をつくってはどうかという動きもあります。
　立地適正化計画は、前回までの会議で「大型店舗がきたことにより、商売にならないから商売をやめるなどの状況があり、買い物するところがなくなってきている」という話が出ていましたが、そもそも大型店舗の出店をしにくくしたり、建ぺい率を変えたりして、ある程度、まちを集約したほうが良いということを言ってきています。
　行政だけでは難しいですが、地域に商店が残って、買い物難民が出ないということが理想だと考えています。

≪市庁内部会副部会長≫
　昔ながらの商店は、市内に数えるほどしかなくなってきています。
　コンビニが最近では、地域の買い物の場所として定着してきています。
　交通手段を持っていない人にとって、買い物は相当大変だということなので、身近に買い物できる環境が非常に大事です。
　ただ、地域で経営が成り立たないという問題はあります。

≪部会長≫
　商店街の活性化の取組みとして何か目立った取組みはあるのでしょうか？
　他市では、空き店舗を活用して、お化け屋敷をつくったという事例などを聞いたこと

があります。

≪市庁内部会副部会長≫
　例えば、「商店街活性化事業補助金」の事例として、登別地区で言うと登別駅前で、昨年度、使われていなかった源泉を活用して「手湯」をつくりました。
　また、今年度では、極楽通り商店街で、アニメ「鬼灯の冷徹」とコラボした取組みの支援を行いました。
　さらに、「商店街活性化事業補助金」のうち、空き店舗の賃借料の補助の活用は増加傾向で、極楽通り商店街でもこれまでになかったジャンルのお店が出店し、温泉街の雰囲気が変わったということで好評です。

≪部会員≫
　芸術家を呼んでいる「アーティストインレジデンス」も空き店舗を活用しているのですか。

≪市庁内部会副部会長≫
　極楽通り商店街の空き店舗に作品を展示しています。
　遅い時間まで、外を散策する観光客も多いので楽しめる時間を提供していきたいと考えて実施しました。
　８月２８日にオープンしたばかりですが、少しでも商店街のにぎわいと魅力向上につなげていきたいと思っています。

≪事務局≫
　「商店街活性化事業補助金」のうち、空き店舗の賃借料の補助は、全ての空き物件が対象というわけではないですよね。

≪市庁内部会副部会長≫
　そうですね、区域を指定しています。
　今後、商店は身近な場所にあるというのが必要だと思いますので、区域の指定の考え方も検討していかなければなりません。

≪部会員≫
　先般行われた「大学フォーラム」で、空き店舗をつかって、地域サロンをやってはどうかという提案が出ていました。

≪事務局≫
　登別本町２町会で空き店舗を改装して、地域サロンをやっています。
　行政だけでなく、地域が主体となって実施していることは、とても良い取組みだと感じています。

市の教育委員会が関わって、子ども達に勉強も教えています。

≪部会員≫
人数や回数が少なくてもいいので、地域にある会館などを活用して実施するところが増えると良いと思います。

≪事務局≫
空き店舗の活用と言っても、店舗が閉まっているだけで、人が住んでいるところがあるのが難しいですね。

≪市庁内部会部会長≫
商店街の中に、１件、空き店舗ができると、だんだんにぎわいが失われ、そのような状況が負の連鎖につながって、近隣店舗もなくなってしまっています。
また、住んでいると店舗を貸したくない人も多く、借り手と貸し手の人間関係も難しいです。
うまく次の人達につなげる仕組み作りができれば良いと思います。

≪事務局≫
まずは、やれることを見つけて、行政であと押しできないかということを考えていくということでしょう。

≪部会長≫
周りの環境が変わってきていることに合わせていくことが必要だと思います。
どうでしょう「④地域コミュニティ機能とにぎわいの創出」について、他にありますか。

≪部会員≫
急がず、焦らず進めていくことが大事だと思います。

≪部会長≫
本日は「②ブランド力・技術力の強化」、「③市内企業の連携強化と地場利用運動の推進、事業機会の強化・拡大」、「④地域コミュニティ機能とにぎわいの創出」についてお話を進めました。
時間も推してきましたので、次回は「⑤経済・産業関連情報の整備及び発信」から進めていきたいと思います。
次回の会議は、１０月１日（水）１８時３０分から第２会議室で開催します。